

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	2018年												2019年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~5日	5月 ~12日	5月 ~19日	5月 ~26日	6月 ~2日	6月 ~9日	6月 ~16日	6月 ~23日	6月 ~30日
カンピロバクター	37	39	48	105	75	71	122	98	160	113	109	109	56	46	78	65	8	26	21	32	17	24	27	0 (29)	0
病原性大腸菌	66	51	44	98	78	83	111	80	73	69	119	157	85	81	77	69	7	17	12	15	15	11	14	9 (10)	8
腸管出血性大腸菌	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	3	1	1	5	3	20	12	22	13	9	5	13	5	3	11	6	0	1	1	1	3	3	2	3	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	11	7	24	10	10	16	26	20	17	22	19	10	9	12	13	0	4	3	7	1	7	4	5	7
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	11	13	12	12	17	14	11	18	7	18	22	22	16	22	14	1	5	1	4	3	1	2	5	1
腸炎ヒブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
その他	0	7	5	3	1	2	4	2	2	1	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
ロタウイルス	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	9	0	2	1	1	0	1	2	2	0
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
ノロウイルス	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	6	23	23	23	11	11	0	1	1	0	2	0	2	1	0

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

広島県感染症発生動向週報

令和元年第26週(6月24日~6月30日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	14	結核	14	1		2		7	4	
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	5	日本紅斑熱	1			1				
		レジオネラ症	4	1		1		2		
五類全数	15	アメーバ赤痢	2					1	1	
		後天性免疫不全症候群	1					1		
		侵襲性肺炎球菌感染症	1		1					
		梅毒	1					1		
		百日咳	8		3		5			
		麻しん	2					1		1

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島市、江田島市
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
北部…三次市、庄原市

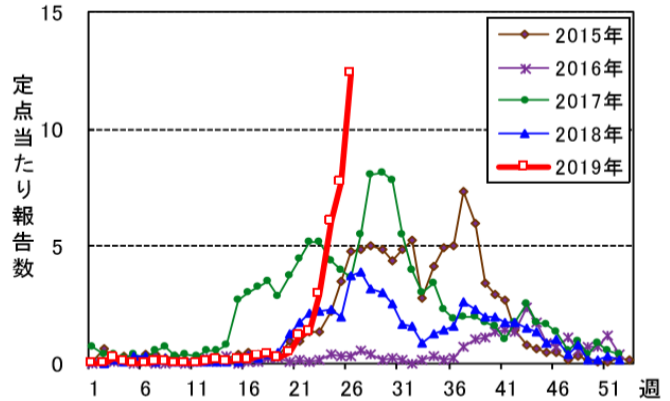
● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第26週 6/24～6/30)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

手足口病の流行状況



1. 手足口病

定点当たり12.4人と、前週の約1.6倍に増加し、流行が拡大しています。

手足口病は、乳幼児を中心に主に夏に流行がみられるウイルス性の感染症です。広島市では、数年おきに比較的大きな流行がみられ、近年では2015年と2017年に流行しました。今後さらに流行が拡大する可能性があり、保育園や幼稚園などの集団生活の場では、特に注意が必要です。

手洗いの励行、排泄物の適切な処理、タオルの共用は避けるなど、感染予防対策を徹底しましょう。

2. 麻しん

1件の報告があり、今年の累計は6件となりました。

【参考】厚生労働省「手足口病に関するQ&A」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	6	0.26	0.84	
小児科	咽頭結膜熱	20	0.87	0.78	⇒	眼科	RSウイルス感染症	14	0.61	0.23	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	2.48	2.62	⇒		急性出血性結膜炎	-	-	0.15	
	感染性胃腸炎	117	5.09	5.63	⇒		流行性角結膜炎	5	0.63	0.73	
	水痘	6	0.26	0.59		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	284	12.35	2.54	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	0.09	
	伝染性紅斑	16	0.70	0.27	⇒		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.23	
	突発性発しん	10	0.43	0.48			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	38	1.65	1.79	⇒		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	0.43	0.03	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	⇒	⇒	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	⇒	⇒	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	⇒	⇒	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	7	89	男性(30歳代)・推定感染地域:国外、男性(40歳代)、女性(40歳代)、男性(50歳代)、女性(70歳代)、男性(80歳代)、女性(90歳代)
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	女性(40歳代)・O103・推定感染地域:国外
4	レジオネラ症	2	12	男性(40歳代)、男性(60歳代)・市外
5	アメーバ赤痢	1	5	男性(50歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	9	女性(40歳代)・感染者
5	梅毒	1	49	男性(30歳代)・推定感染地域:国外
5	麻しん	1	6	男性(10歳未満)・市外

■新たに判明した病原体検出状況

新たな検査結果はありません。